

磯野直秀氏収集博物学関連文献資料「磯野文庫」

磯野直秀氏は慶応義塾大学経済学部生物学教授として、永年学部学生の生物教育に携わる一方、エドワード・モースをはじめとする明治のお雇い外国人など、生物学史の研究、江戸期の本草学などの研究を進め、我が国の生物学史、博物学史研究の第一人者であった。その成果は2012年に「日本博物誌総合年表」として結実している。

今回寄贈された書籍及び関連資料は日本人の自然認識の歴史を追った磯野氏の研究の基礎となってい

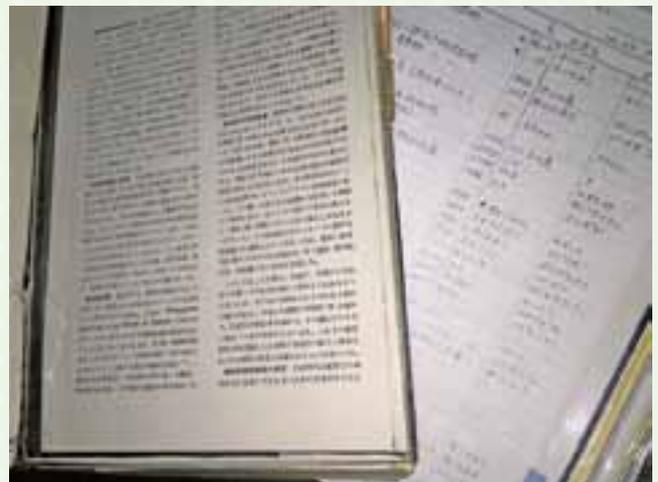
る。磯野氏は東京国立博物館や国立国会図書館を利用して研究をしていたが、この磯野文庫には磯野氏が個人所蔵の文献類の他に、上記の機関などから研究のために複製した資料(図2)、35mmスライドフィルム及びデジタルデータ、研究ノートなどからなる。中でも詳細なメモや付箋、追記がなされた「年表日本博物学史」(上野益三1989年)、「日本博物誌年表」(磯野2002年)など(図3)は、研究の経過や背景を知る事のできる重要資料といえる。



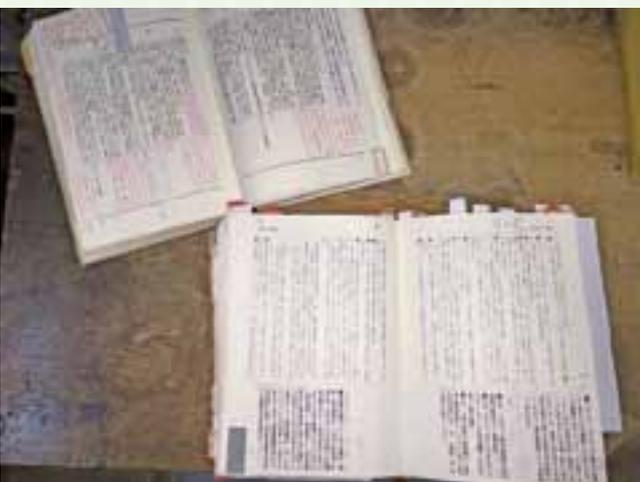
▲ 図1：本草関係の研究書類



▲ 図2：各専門図書館から取り寄せた複製資料



▲ 図4：研究の経過をたどることのできるノートファイルと参考資料群。



▲ 図3：書き込みがされた旧版の日本博物誌年表

今回の資料は博物学史だけでなく、民俗学、文化史、園芸史、近代生物学史などを含み、野生植物から栽培種、昆虫、鳥、獣、両生は虫類、貝、魚、鯨など多岐に及ぶ。「お雇い外国人」の関連資料も多く含んでいる。この資料群は磯野裕子氏らご遺族の希望で大阪市立自然史博物館に寄贈されることになった。関連研究者の活用を望んでいる。